

海外安全対策情報
(2022年1月～3月分)

在フィリピン日本国大使館

1 治安情勢

- (1) フィリピン各地における新型コロナウイルス感染症は、ブースターショット等ワクチン接種実施が相当程度進んだ事により現在鎮静化しているが、新たな変異種が流行する可能性も認められ、引き続き嚴重な感染防止対策が必要である。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の鎮静化に伴い、マニラ首都圏の繁華街を往来する者が増加し、邦人が携帯するバッグや携帯電話をひったくられる窃盗被害に遭う事例が複数報告されており、周囲に常に目を配り、注意する必要がある。

2 一般犯罪の傾向

マニラ首都圏のコンドミニアムに在住の邦人男性が同居の比人女性とともに、知己の比人男性に殺害された上、室内に設置されていた電化製品等を強取される強盗殺人事件が発生している。知人だからと言って安易に住居内に他人を入れず、無用な争いを避け、命を最優先として行動を取るよう注意する必要がある。

3 テロ・爆弾事件発生状況

邦人を被害者とする事件の発生は認められないが、安全対策には引き続き十分注意する必要がある。

4 日本企業の安全に関する諸問題

当地においては、一般的に企業及び個人に対する恐喝、脅迫、誘拐等が生じるおそれがあること、過去に日系企業（社員）や関連企業（現地法人）に対する脅迫事件も報告されたこと等を踏まえ、進出日系企業関係者は、企業及び社員の安全に関し注意する必要がある。

また新人民軍（NPA）は、地方に展開する民間企業に対して、「環境破壊」、「住民搾取」等を口実として「革命税」を要求し、企業側が応じない場合には、脅迫、恐喝、襲撃（主に農園等の各種機材破壊）等を行っていることから、現地採用職員の動向も含め、日頃から情報収集を行うなど十分な注意が必要である。またミンダナオ地域の中部以西では、アブ・サヤフ・グループ等イスラム系武装勢力の動向に細心の注意を要する。

5 その他

新型コロナウイルス感染症の感染予防に万全を期すとともに、コミュニティ隔離措置、感染状況、医療事情、入国・帰国規制等に関する最新情報に留意する必要がある。